

飯伊地区 産業経済動向

No.497 2020/8
(2.9.25 発行)



IIDA SHINKIN BANK
飯田信用金庫
しんきん南信州地域研究所

http:// www. iidashinkin. co. jp
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主 要 指 標		実 数	前 月 比	前年同月比
手 形 交 換 高 (飯田手形交換所扱)	枚 数	2,523 枚	△ 6.8 %	△ 3.0 %
	金 額	3,871,691 千円	11.0 %	5.7 %
う ち 不 渡 発 生 状 況	枚 数	1 枚	(前月 0 枚)	(前年同月 0 枚)
	金 額	5 千円	(前月 0 千円)	(前年同月 0 千円)
倒 産 件 数 (負債額1千万円以上)	県 内	8 件	(前月 9 件)	(前年同月 6 件)
	飯 伊	1 件	(前月 2 件)	(前年同月 0 件)
住 宅 着 工 戸 数 (飯田市、下伊那郡 総数)(7月)		44 戸	△ 32.3 %	△ 31.3 %
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(7月)		0.90 倍	(前月 0.88 倍)	(前年同月 1.48 倍)
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新 車	1,765 台	△ 19.9 %	△ 21.0 %
	中古車	664 台	△ 24.6 %	6.8 %
軽自動車新規登録台数 (軽自動車協会連合会長野事務所) (7月)	新 車	4,321 台	16.6 %	6.4 %
	中古車	1,175 台	△ 11.2 %	16.7 %
中 央 道 利 用 台 数 (飯田インター分)	入	91,274 台	1.2 %	△ 29.0 %
	出	91,275 台	0.6 %	△ 29.7 %
中 央 道 利 用 台 数 (松川インター分)	入	65,610 台	7.2 %	△ 24.3 %
	出	63,587 台	7.7 %	△ 23.7 %
中 央 道 利 用 台 数 (園原インター分)	入	18,238 台	71.6 %	△ 10.8 %
	出	17,577 台	61.2 %	△ 13.6 %
中 央 道 利 用 台 数 (飯田山本インター分)	入	40,883 台	23.0 %	△ 25.1 %
	出	41,223 台	27.5 %	△ 24.9 %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		343 件	△ 34.0 %	136.6 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		12 件	(前月 2 件)	(前年同月 7 件)
高 速 バ ス 乗 車 人 数	飯田～新宿	4,400 人	△ 4.7 %	△ 88.1 %
	飯田～名古屋	4,150 人	△ 27.6 %	△ 81.9 %
	飯田～長野	3,040 人	△ 24.9 %	△ 67.1 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	3,226 人	28.7 %	△ 89.0 %
市 内 循 環 バ ス 乗 車 人 数	左回り	2,898 人	4.1 %	△ 22.5 %
	右回り	2,631 人	△ 3.1 %	△ 27.2 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (http://www. iidashinkin. co. jp) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみなさまとともにしています。



再生紙を
使用しています

概 況

製 造 業

8月の製造業の業況判断指数(DI)は、マイナス41.4で、前月から14.2ポイント上昇。翌月予測はマイナス46.2で、前月から24.0ポイント上昇している。

電気、精密機械器具の売上は、前月比は概ね横ばい、前年比はやや減少との声。半導体、液晶製造装置向け部品の販売は、前月比やや減少、前年比はやや増加との声も複数聞かれる。景況感は悪化との声が多い。産業機器や医療機器向け部品の販売の前月比は、減少～増加と業者によって増減分かれるも、減少、やや減少との声が多い。「相見積もりが多く、単価交渉は厳しい」など、販売価格に下押し圧力がかかっているとの声は複数。建築用金属製品の販売は、前月比増加も、前年比は減少との声。自動車向け部品の販売は、前月比やや減少も、前年比では増加との声。小型電磁機器の生産は、前月比で概ね横ばいとの声。先行きはやや改善を見込むという。FA関連モーターの販売は、前月比やや増加、前年比では概ね横ばい。光学機器部品の販売は、前月比、前年比とも減少、景況感も悪化との声が寄せられた。電気、電子製品の生産は、前月比やや減少。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、前年比減少との声が多く、先行きも売上減少を見込む声が聞かれた。「景気全般含め、どんどん悪くなっている」などの声。水引製品の売上の前月比は、減少～やや減少。「今年のコロナ禍は、結婚や葬儀などの慣習、文化にも後戻りのできない変化をもたらしているように感じており、水引業界への影響も大きい」など、コロナによる影響が業界全体に影響を及ぼす可能性について指摘する声が複数寄せられた。漬物の販売は、前月比やや減少との声。

建 設 業

8月の建設業の景況DIは18.2で、前月から18.2ポイント上昇。翌月予測DIはマイナス14.3で、前月から1.1ポイント上昇している。

当月の受注残高の前月比は、業者により増減分かれるが、横ばい～増加との声やや多い。令和2年7月豪雨に伴う声が多く、「当地区の公共工事は国土強靱化、減災、防災の最終年度と、三遠南信自動車道工事、リニア関連工事に加え、7月の豪雨災害等で忙しい。今後発注される工事には不調、不落も出るのでは」などの声が寄せられた。

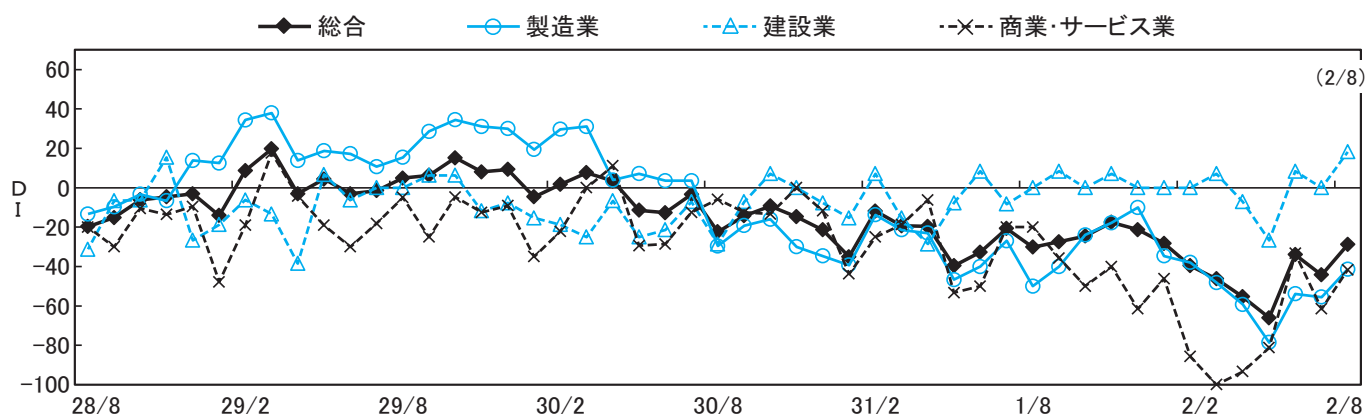
当地区の7月の住宅着工戸数は44戸。前月比32%減少、前年比も31%減少している。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、やや減少～横ばい。民需ではコロナの影響を指摘する声が依然多く、「どこの会社も十分な仕事はないのでは。コロナの影響が予想以上に長引き、住宅にも及んでくるのでは」などの声が寄せられた。

商業・サービス業

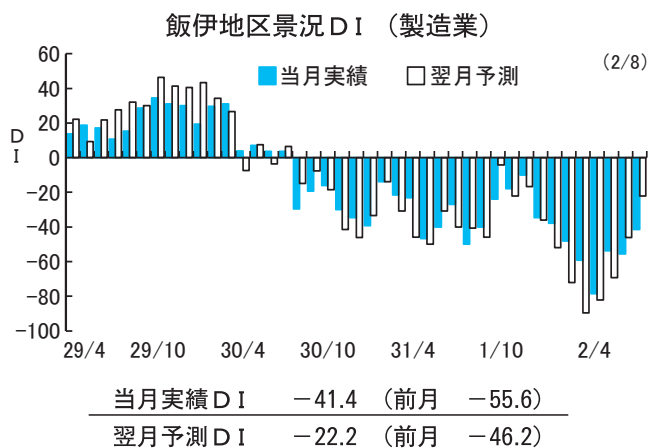
8月の商業、サービス業の景況DIはマイナス41.7で、前月から19.8ポイント上昇。翌月予測DIはマイナス63.6で、前月から23.6ポイント低下している。

食料品の売上の前月比は、やや増加。前年比は、業者により増減分かれる。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや減少、景況感もやや悪化との声。電化製品の売上は、前月比やや増加。OA機器の売上は、前月比減少も、前年比増加との声。衣料品の売上は、前月比概ね横ばい、前年比はやや増加との声。「商品券配布があり、当社でもこれによる購入がある。購入自粛ムードが解けた感もあり、5～8月の売上は回復基調。ただ、見通しははっきりしない」などの声が寄せられた。医療、介護関連の売上は、前月比、前年比ともやや減少、景況感も悪化との声。市内料理店からは、「上旬はコロナの影響で宴会のキャンセルが多かったが、下旬になって少人数の宴会が再び多くなった」などの声。市内宿泊施設の売上は、前月比増加、前年比はやや減少という。昼神温泉の売上は、「コロナの影響が継続中」で前年比減少。前月比は増加との声も。「前年比でみると、6月、7月、当月と徐々に戻ってきている」などの声が寄せられた。タクシーの売上は、前月比、前年比とも減少との声。

飯伊地区景況DI (本誌調査)



地区内製造業の景況判断指数



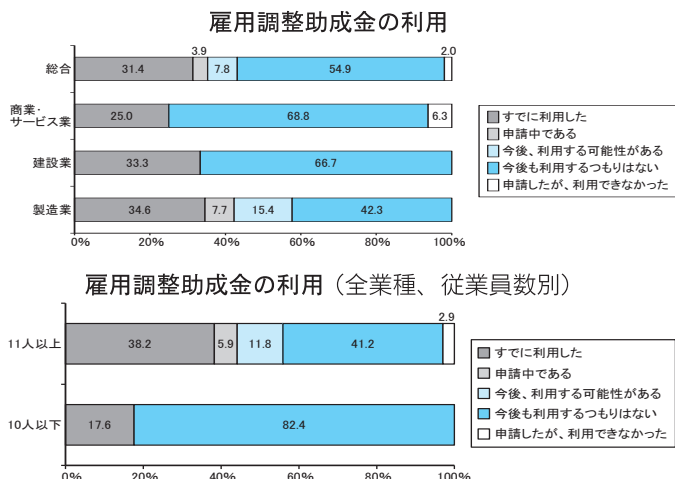
当月の製造業の業況判断指数（DI）は、マイナス41.4で、前月から14.2ポイント上昇。翌月予測はマイナス22.2で、前月から24.0ポイント上昇している。

今月の本誌調査では、コロナに関する各種支援策等の利用に関する調査を実施しました。ご協力いただいた事業者の皆様にはこの場を借りて御礼申し上げます。（調査概要：・本誌調査先に対し、調査票を配布して回収。・回答総数51（製造業26、建設業9、商業、サービス業16）。・調査期間令和2年9月2日～9月18日）

【雇用調整助成金の利用】

雇用調整助成金の利用について、全業種を合わせると「今後も利用するつもりはない」が半数を超えて最も多く、次いで「すでに利用した」、「今後、利用する可能性がある」の順となった。業種別では、全ての業種で「今後も利用するつもりはない」が最も多かったが、製造業では「すでに利用した」、「申請中である」、「今後、利用する可能性がある」の合計で半数を超えており、他業種に比べ利用が進んでいる状況が窺える。また、全業種による従業員数別の比較では、11人以上の事業者で「すでに申請した」と回答した割合が4割近くとなったのに対し、10人以下の事業者では「今後も利用するつもりはない」と回答した割合が8割超となっており、従業員規模が大きい事業者で、より利用が進んでいることが分かる。

今回のコロナ禍においては、当初は飲食業、宿泊業などの商業・サービス業で大きな影響がもたらされたが、今回の雇用調整助成金に関する調査では、当地域の基幹産業である製造業にも影響が及び、また従業員



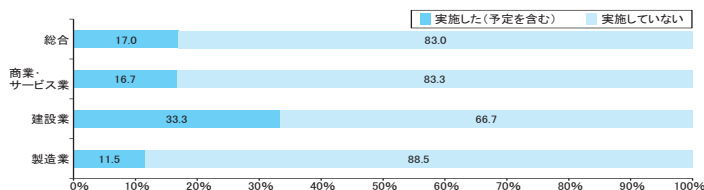
を多く抱える事業者ほど、その影響を強く受けている可能性を示唆する結果となった。

【テレワーク、在宅勤務、リモートワークの導入】

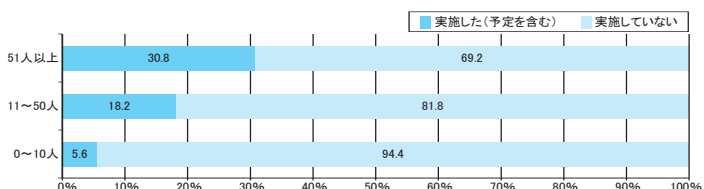
テレワーク等の実施について、全業種では「実施していない」との回答が8割超となり、「実施した（予定を含む）」と回答した事業者は概ね6者に1者の割合となった。なお、「実施していない」との回答のうち、ほとんどの事業者が「実施できる業務ではない」との回答となっている。業種別では、「実施した（予定を含む）」と回答した割合は、建設業が最も高く、製造業が最も低かった。また、全業種による従業員数別の比較では、51人以上の事業者で「実施した（予定を含む）」との回答が約3割あり、11人以上50人以下の事業者では2割弱、10人以下の事業者では6％程度となった。

今回の調査では、業務を分担しやすいと考えられる、従業員規模の大きい事業者を中心にテレワークが実施されている状況が見てとれる結果となったが、少数ながら従業員数10人以下の事業者でも実施されていることが判明した。コロナ禍にある昨今において、テレワークを含むデジタル技術の導入は事業者の競争力強化に必要な不可欠といえ、本件に関しては、当研究所でもさらに調査を進めるべき項目であると考えている。

テレワーク等の導入



テレワーク等の導入（全業種、従業員数別）



本調査では家賃支援給付金の利用状況についても調査しており、結果は商業・サービス業のページに掲載しているので、こちらをご参考ください。

機械加工製造業

電気、精密機械器具の売上は、前月比は概ね横ばい、前年比はやや減少との声。受注残高も前年比で減少傾向が続いており、先行きも弱含みという。雇用面、設備面は、当面現状維持の様子。原材料、資材価格や販売価格に大きな動きはなかったという。

半導体、液晶製造装置向け部品の販売は、前月比やや減少、前年比はやや増加との声も複数聞かれる。景況感は悪化との声が多い。「半導体の特需が落ち着き、全体的に踊り場感が強い」「コロナ禍の影響で設備投資がスリップした状態が継続」「装置関連が減産」「9月の中間決算に向けて調整に入っている」「FPD関連は減少」などの声が聞かれ、先行きも弱含みとの見方が多い。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子も、販売面では「コストダウン要請は強い」という。雇用面では当面現状維持との声が多いが、今後については「優秀な人材がいれば採用を検討」「技術経験者を募集」との声も。設備面では、今後の動きとして「設備のレイアウト変更を予定」との声が聞かれ

たが、当月では大きな動きはなかった。

産業機器や医療機器向け部品の販売の前月比は、減少～増加と業者によって増減分かれるも、減少、やや減少との声が多い。「8月は稼働日が減少する分、売上ダウン」「8月は毎年売上が低迷」と、季節要因を指摘する声が複数寄せられる一方、「コロナ禍の不景気で、だんだん状況が悪くなり先が見えない」「景気低迷でお盆休みが長期化する企業が多い」など、景気そのものに対する不安感を指摘する声も多い。その他、「お土産向けの菓子製造機器は激減」「表面実装機は減産」「ブレーキ関連を中心に減産、ブレーキ関連は年内厳しい様子」「航空機関連は良くない」「海外の設備向けが動かないと、景気が良くならない」との声。先行きに関し、一部に上向きとの声もあるが、「9月は出足の受注増加も、後半は不透明」「落ち込みはこれから。年内は厳しい状況と思われる」「今は我慢して耐える時期」といった声が多い。

こうした中、「相見積もりが多く、単価交渉は厳しい」「コストダウン要求は厳しい」など、販売価格に下押し圧力がかかっているとの声は複数寄せられた。雇用面では、一部に「欠員を補充」「正社員を補充したい」との声もあるが、現状維持との声が多数を占める。設備面でも積極的な声は聞かれない。

建築用金属製品の販売は、前月比増加も、前年比は減少との声。「例年、秋口から活況を呈する時期であり、今年も今のところその傾向にある」との声が寄せられた。原材料単価に大きな変化はないものの、「10月から国産アルミ材が上昇」という。雇用面では「現場人員を増員」との声が聞かれた。

自動車向け部品の販売は、前月比やや減少も、前年比では増加との声。景況感は横ばいで、先行きも大きな動きは見込まれていない様子。

小型電磁機器の生産は、前月比で概ね横ばいとの声。景況感は横ばいも、先行きはやや改善を見込むという。雇用面、設備面では現状維持の様子。

FA関連モーターの販売は、前月比やや増加、前年比では概ね横ばい。とはいえ「コロナによる世界経済への影響が長期的に懸念される」など、景況感は悪化しており先行きも弱含みという。

光学機器部品の販売は、前月比、前年比とも減少、景況感悪化との声が寄せられた。先行きも弱含みという。当月、原材料価格がやや上昇しており、今後とも上昇傾向が続くとの声も。雇用面では、現状で余剰感があるという。

電気、電子製品の生産は、前月比やや減少。「8月に入り、新規の話がいくつか持ち込まれてきた」との声もあるが、先行きは弱含みという。研究、開発人員の不足感を指摘する声が依然聞かれる。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、前年比減少との声が多く、先行きも売上減少を見込む声が聞かれた。「コロナで先行きが不明」「コンビニ向けの減少が続いている」「景気全般含め、どんどん悪くなっている」などの声。盆月を迎えて、売上の前月比が増加した業者も見られたが、こうした業者では先行き減少を見込んでという。当月、原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子。

水引製品の売上の前月比は、減少～やや減少。「毎年8月は盆月で休みが多く販売不振だが、今年はコロナの影響で例年より落ち込みが激しい。従業員の出勤を半減し、助成金を受けて営業を続けている」「引き続き、スポットの引合いは低調な状況が続いている」との声のほか、「ホームセンターの売上は増加したが、スーパーマーケットの売上は減少した」など、販路によって売れ行きに差が出た様子も窺える。景況感については悪化した業者が多いが、先行きについては改善

を見込む業者の声も聞かれた。また、「今年のコロナ禍は、結婚や葬儀などの慣習、文化にも後戻りのできない変化をもたらしているように感じており、水引業界への影響も大きい」「今後、新しい生活様式が当たり前になってきたとき、都市部において水引製品が受け入れられるのか疑問。今の中高年の時代が過ぎ、今の20～30代の時代になったとき、果たして正月飾りや注連縄が飾られているだろうか」など、コロナによる影響が業界全体に影響を及ぼす可能性について指摘する声が複数寄せられた。こうした状況の中、「今の若者にも興味を持ってもらえるよう、10年くらいの時間をかけて時代にマッチする製品の提案を続けたい」「一陽来復を期待」などの声が寄せられた。

漬物の販売は、前月比やや減少との声。「コロナ感染が再び拡大した月だったが、以前と比べスーパー向け商材の大きな伸びは見られない」という。また、「原料野菜の高価品薄もあり、積極的な販売ができない月であった」との声が寄せられた。

その他製造業

食品包材の生産は、前月比概ね横ばいとの声。当月原材料、資材価格に大きな動きはなく、先行きも現状が続く見込みという。

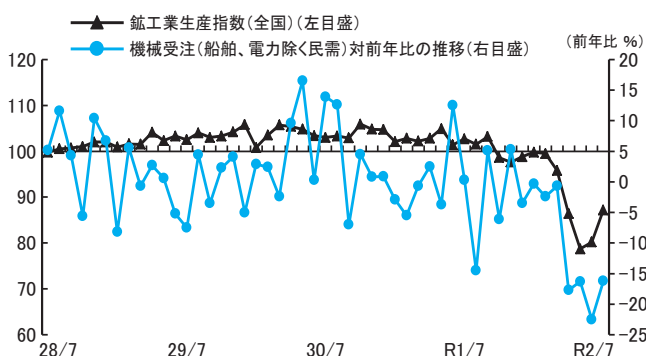
印刷、出版関連の売上は、前月比、前年比ともに減少との声。「8月は季節要因により年間で最も売上が少ない月だが、過去に遡ってもここまで悪い数字はなかった」「大きなイベントの中止がやはり大きく響いている」などの声が寄せられた。雇用面で積極的な声も。

衣料品の販売は、前月比、前年比ともに増加も、受注残高は前月比、前年比とも減少、先行きも弱含みとの声。服飾については、「相変わらず百貨店の販売不振による受注減が続いており、今後の見通しがつかない」という。コロナ関連需要については、「マスクは好調」「政府による使い捨て医療用ガウンの依頼が来て、服飾の受注減を補っている」との声が聞かれたが、「恐らく10月末までの受注はあるが、その後が問題」と、先行きに関して不安視する声も。人員については、「現状ワーカーが不足しており、コロナが終息次第実習生を採用する予定」などの声も聞かれた。

【企業からのコメント】

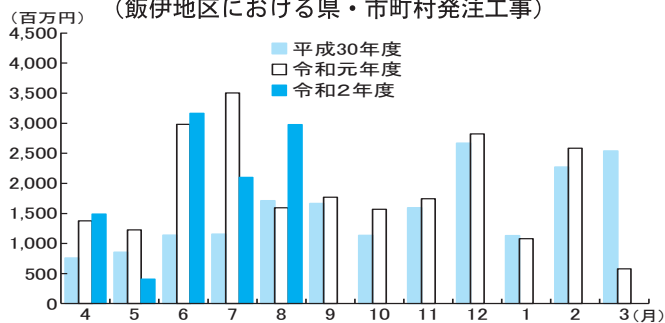
- ★零細企業では金・土・日の3連休から、月曜まで含めた4連休になるところも。
- ★災害対策用品は、かなり引き合いが増加。
- ★中国からの物流の遅れは、ほぼ解消された。
- ★観光、飲食、外食向けの商材は新型コロナの影響がみられる。
- ★製品によっては、二次、三次と下請けに回るほど単価が削られる。商社ばかりが儲かるように思えてならない。

機械受注・鋳工業生産指数の推移



月別入札額

(飯伊地区における県・市町村発注工事)



(資料：新建新聞入札結果欄より抜粋)

当月景況DI 18.2 (前月 0.0)

翌月予測DI -14.3 (前月 -15.4)

官公需

当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約29.8億円、前月比42%増加、前年比も87%増加している(9月15日調査時点)。

当月の受注残高の前月比は、業者により増減分かれるが、横ばい～増加との声がやや多い。

当月は令和2年7月豪雨に伴う声が多く、「公共工事は多い」「当社の場合受注残高が少ないが、災害が多かったため年度後半には発注が増えるのではない」「当地区の公共工事は国土強靱化、減災、防災の最終年度と、三遠南信自動車道工事、リニア関連工事に加え、7月の豪雨災害等で忙しい。今後発注される工事には不調、不落も出るのでは」「農業関連工事に加え、今年は災害が多く受注は増える見込み」などの声が聞かれた他、「年度繰越業務があり、受注残高は前年比増」などの声が寄せられた。

こうした中、雇用面の不足を指摘する声は依然多く、「慢性的な人手不足と高齢化が進んでいる」「施工社員不足」「今後復旧工事を中心に発注があると、技術者、労働者不足になる」「災害対応で各社人手不足」「業務量はあるが、技術者が不足。1名増員も募集は続ける」などの声。

「今年中にいくつかの機械を交換」「現在施工中」「事務所のメンテナンス及び増築」「急を要する投資あり」「ソフト購入」「施設建築中」「パソコン関連投資」など、設備投資に積極的な声も少なくない。

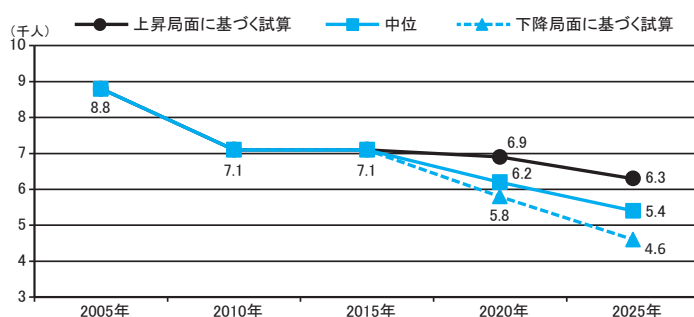
当月、原材料資材価格や工事単価に大きな動きはなかった様子も、「燃料上昇で石油製品の価格が上昇」など、先行き原材料、資材価格の上昇を見込む声が少ない。

【長野県内建設技術者数の推計】

(一財)建設業情報管理センターが、国勢調査を基に長野県内の建設技術者数を推計している。

これによると、建設市場の上昇局面である2010～2015年の変化率を用いた場合においても、2025年時点の建設技術者数は、2015年に比べて約0.8千人減少するという。また、下降局面である2005から2010年の変化率を用いた場合には、10年間で約2.5千人減少すると試算されている。

長野県内の建設技術者の推計



(出典：(一財)建設業情報管理センター「地域建設産業のあり方に関する調査研究タスクフォース(長野県)」)

民需

当地区の7月の住宅着工戸数は44戸。前月比32%減少、前年比も31%減少している。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、やや減少～横ばい。「住宅やリフォームは受注、営業残があるのでますますだが、公共建築、一般の建築工事はない」「リフォーム、修繕工事のみ」などの声。

民需ではコロナの影響を指摘する声が依然多く、「どの会社も十分な仕事はないのでは。コロナの影響が予想以上に長引き、住宅にも及んでくるのでは」「コロナの影響で民間工事は少なくなっている感。景気そのものが冷え込み始め、さらに影響は大きくなるのでは」「民間は、設備投資の見直しや、個人住宅でも雇用や所得環境への不安から低調」などの声が寄せられた。

「社員大工中途増員。今後も良い人材が居れば採用」「不足感がある」「営業を特に必要としている」など雇用面の不足感を指摘する声が複数。

建設資材

建設資材、塗料等の売上は、前月の結果だが、前月比、前年比ともやや増加も、景況感は悪化との声が寄せられた。仕入れに関し、「7月時点で県外の間屋、メーカーの来訪をお断りしており、仕入が少し減っている」という。

当月の生コンの売上は、前月比増加、前年比は調査先により増減分かれる。当月の主な出荷は、「三遠南信自動車道工事、発電所工事、砂防工事、治山工事、築堤護岸工事、老人福祉施設工事に関わるもの」で、「リニア関連工事の出荷量は、当月出荷量全体の4%弱」だったという。先行きに関し、「目下の工事に加え、秋以降はその他の工事や7月の災害関連工事で忙しくなる。それに伴って運転手、車両不足の問題が起きてくる。できることを始めている」との声。

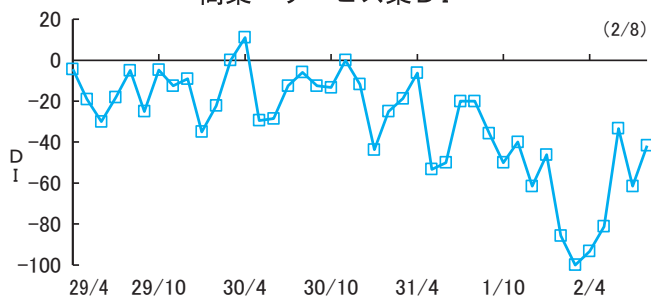
骨材の売上は、前月比、前年比とも増加。「生コン向けの出荷が多かった」「前月の長雨が一転して好天が続く、現場が活発になった」などの声。「7月の大雨による災害復旧工事が今後の出荷に反映しそう」との声が聞かれた。

【企業からのコメント】

- ★三遠南信のトンネル工事が軌道に乗ってきて、生コンのコンスタントな出荷に繋がっている。
- ★建設の景気は良いと思うが、全般の経済状況は良いとはいえない。
- ★災害復旧や土木が多いので地域が救われている。景気の上昇による仕事量の増加は難しい。

商業・サービス業

商業・サービス業DI



当月景況DI -41.7 (先月 -61.5)

翌月予測DI -63.6 (先月 -40.0)

商業

食料品の売上の前月比は、やや増加。前年比は、業者により増減分かれる。「コロナの影響で外出自粛が続き、スーパーは売上増加が続いている」「新盆の飲食を家庭でも控えたり、盆踊り等の行事も中止で、皿盛、ビールなどの注文がほとんどない」などの声。当月、仕入価格がやや上昇。こうした中、「全体に不景気」など、景況感が悪化した業者も複数見られる。

【青果卸売市場】

販売は、前月比、前年比とも増加。

野菜は、「去年は生育順調で安値だったが、今年は7月の長雨と8月の猛暑で野菜全体に品薄が続いた。昨年価格安だった白菜、南瓜、人参などは5～8割高。野菜全体では入荷量7%減で、価格は29%高となった。9月に入れば価格も落ち着く見込み」という。

果実は、「主力商品の幸水梨、つがるは順調な入荷。桃は不作気味で入荷量は少なかった。夜温が下がらないこともあり、ぶどうやりんごの色付きが悪い。果実全体で、入荷量は8%減、価格は14%高。りんご、梨ともに出荷が早まり、9月は昨年ほどの入荷は期待できない模様」という。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや減少、景況感もやや悪化との声。先行きはやや増加を見込んでいるという。

電化製品の売上は、前月比やや増加。「前月同様、冷蔵庫、テレビ、洗濯機、エアコンなど家庭向け白物家電が好調」「工場関連は生産体制の見直し等により販売量が落ちている」「コロナ対策もあり、各市町村が教育現場におけるオンライン化を進めており、関連商材の需要増加が期待できる」などの声が聞かれた。

OA機器の売上は、前月比減少も、前年比増加との声。「テレワーク機材を導入」との声も。

衣料品の売上は、前月比概ね横ばい、前年比はやや増加との声。「商品券配布があり、当社でもこれによる購入がある。購入自粛ムードが解けた感もあり、5～8月の売上は回復基調。ただ、見通しははっきりしない」などの声が寄せられた。

サービス業

医療、介護関連の売上は、前月比、前年比ともやや減少、景況感悪化との声が寄せられた。

市内料理店からは、「上旬はコロナの影響で宴会のキャンセルが多かったが、下旬になって少人数の宴会が再び多くなった」「例年に比べお盆の注文が少ない」などの声。仕入に、「種類は揃い出したものの、長雨、猛暑で値段は高い」「サンマなどの季節ものが少ない」という。「コロナ対策を施した宴会ができるようにしていく。テイクアウトメニューなども工夫していく」との声も。

市内宿泊施設の売上は、前月比増加、前年比はやや減少との声。コロナの影響は大きい様子で、「お盆の観光需要もあり、今年に入って最も売上が多かった。とはいえ、本来ならもっと多かったはずで、イベントやお祭りもなく、集客に苦労した」「稼働率は、最低限を確保したが、客単価は

昨年より低下」などの声。「ビジネス客の動きは戻りつつあるが、予約が直近型で、先予約が少ない。秋の行楽が動いてくれることを期待」という。

昼神温泉の売上は、「コロナの影響が継続中」で前年比減少。前月比は増加との声も。「前年比でみると、6月、7月、当月と徐々に戻ってきている」「基本的には、依然外出を控える傾向があるのでは。しかし、都市部からのお客様も毎日入っている」「大型施設では修学旅行の受け入れも始まっている。子供たちのにぎやかな声が聞こえると、コロナ前に戻ったようで勇気付けられる」「感染症防止対策は気の緩みが大敵と考える。対応に落ち度がないか、点検を定期的に行う」などの声。当月はGoToトラベルキャンペーンに関する声が多く寄せられ、「予約の8割はGoToを利用。ナイトツアーのお客様も、やはりGoToに絡めて利用している」「割引分の入金を付け合わせるのに手間がかかる」などの声が寄せられた。先行きに、「コロナの影響が年内に解消することはないと想定している」「冬から春に掛けての予約が厳しい。イベントをうまく取り込んだ企画で集客を図りたい」などの声が寄せられた。

タクシーの売上は、前月比、前年比とも減少との声。「夜間の需要が大きく落ち込んでいるのに加えて、本県のコロナ感染の影響もあるのか、昼間のお客様の減少が大きい」「365日24時間の営業スタイルと需要のバランスが変化している。公共交通機関としての使命もあり、耐え切れる方策を見出さなければならない」などの声が寄せられた。LPG価格が「若干の値上がり傾向」という。

【調査先企業の声】

- ・予測の難しい中なので、今後の動向を注視していく。
- ・これから厳しくなる。
- ・先が見えないのが一番つらい。
- ・コロナ禍の終わりが見えない。どこまで耐えられるか大きな問題。
- ・地元では、行政の商品券配布で売上が回復した企業も多いが、業種によっては依然厳しいところもありそう。
- ・プレミアム商品券で家族連れのお客様が多い。
- ・同業では、県内他地区で倒産、他県でも同地区内で数社同時廃業といった状況がある。当地区も対岸の火事ではないように思う。

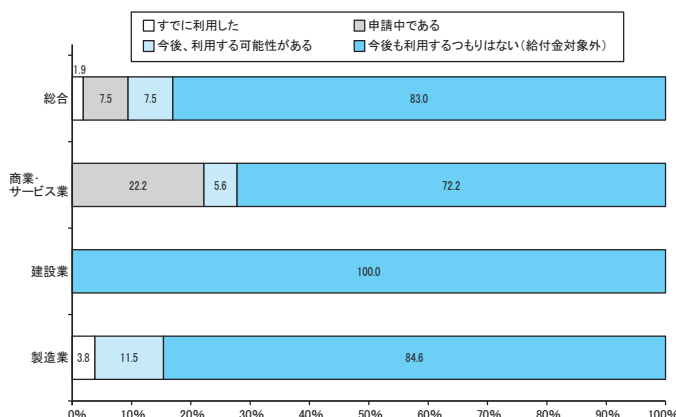
【家賃支援給付金の利用状況】

しんきん南信州地域研究所では、コロナに関する各種支援制度の利用状況を調査した。

本年7月14日に申請が始まった「家賃支援給付金」の利用状況を見ると、全体で83%の事業者が給付対象外など「今後も利用するつもりはない」と回答した。「すでに利用した」「申請中である」「今後、利用する可能性がある」など、利用に積極的な声の中では、商業、サービス業の事業者で利用に積極的な事業者の割合が最も大きい。

本調査では雇用調整助成金の利用状況や、テレワーク等の導入利用状況についても調査しており、結果は製造業のページに掲載しているので、調査概要とともにこちらまでご確認ください。

家賃支援給付金の利用



流れ雲の目（37） 親父の背中

飯田信用金庫 地域サポート部
専門アドバイザー 小泉 敏郎

昔から子供は親の背中を見て育つと言われている。

小さい子供にとって親は唯一の頼りになる最大限の存在なわけですから当たり前のことですよね。そして小学校に通い高学年にもなってくると、社会生活の中から色々の知識や情報をもらって成長してくるし、知恵もついてきて自ずと自我を持ち始め、ことの善悪や状況判断ができるようになってくる。

男性は親父の態度を見て無意識のうちに真似をするし似てもくる。女性は母親の態度、言葉、話し方その他全ての行動が見紛うように似てくるものである。子供にとっての両親は先生になるわけで、似てくるのは当然のことで、子供は親の後ろ姿を見て育つと言われるのは至極当たり前のことである。結婚相手を選ぶときにはその母親を見ろと、昔先輩に言われたことがある。特に女性は母親そっくりになるからと教わったことを覚えている。

もって生まれた DNA の影響で33%、親の仕草言動や態度の刷り込みで33%、その後の社会との繋がりの影響で残りの33%ぐらいである人間が構成されているように私は経験から思いますが、皆さんのご意見は如何なものでしょうか。

子供は純粋で素直だから家の外での行動や言動は場所その他周りの環境、ことの良し悪しを考えずに思った通り発言もするし行動をするもので、しばしば同行している親や身内が赤面する場面をも起こすことがある。

子供を見れば親やお里が知れると世間で言われる所以がそこにある。

日本には法人格のある企業がざっと200万社以上あるのは周知の通りであるが、その99%は従業員99人以下の会社である。社長と従業員一人企業から従業員98人までの企業が縁の下で力持ちとして底固めを担っているからこそ日本経済が成り立っているとも言える。

これら数多の千差万別な中小企業を一口で語ることはできないが、間違いなく言えることは、経営者の質、レベルでその企業の業績は大きく変わるということである。

どの企業にしても社長だけでなく従業員が頑張ってくれるお陰で成り立っていることは間違いはないが、全体を見渡し、小さなことから大きなことまでも含めて、部分最適だけではなく全体最適を目指し行動しているのは社長であることは言うまでもない。

社長にもそれぞれの特徴や癖もあるし、経営思想の違いや方法論の違い、部下への指示命令方法も異なるが、共通して大事なことは人間的な優しさと仕事への厳しさを併せ持って行動していることである。

子供が親父の後ろ姿、背中を見て育つように、企業においても従業員、部下は上司、社長の後ろ姿を必ずと言って良い程良く見ているものだ。

数十人の会社の社長は往々にして従業員から「ウチの親父は」という言い方をされていることがあり、そういう会社は非常に家族的で従業員も社長を慕ってる場合が多い。

親父と呼ばれる社長の後ろ姿を見て部下がどう思うか、どの様に育つかが大事なことであり、社長にとっては自分の後ろ姿や背中を部下にどう見せるか、その背中が何を語っているのか、どう物事を考えさせるかを説得できる背中を持っているかが大きな課題なのである。

仕事に対しては厳しいがこの人に付いて行こうと思わせる人間性の滲み出た後ろ姿をしているかどうか、肩幅

が広くがっしりとしていて体力的に頼もしく頼り甲斐があるに越したことはないが、それだけで部下が付いてくることはない。小さくて痩せていて、体力的に弱々しそうでもその背中から漂う雰囲気は部下を惹きつけることも当然あり得る。

男の背中はその人間の生き方考え方、そして人間性が滲み出た男の履歴書とも言えるものだ。強さや厳しさと人間的優しさが滲み出ている後ろ姿に人は好感を持ち、慕ってくるのである。

頼り甲斐のある親父、社長の一番重要な仕事は、利益を上げることはもちろんだが、部下従業員を育てることであり、全社員が社長感覚で全体最適を考えて行動できるようにすることである。同じ事を繰り返すが会社経営は社長の資質が一番大事でありそれによって大きく業績は左右されるものである、しかし社長一人では会社経営は成り立たない、従業員が社長と同じ感覚を持って仕事をするにより強い組織になり、大きな成果も得られるのだ。

社風とかその会社の独特の雰囲気というものがあるが、基本的にはそれらは社長の行動、発言、人間性に基づくものと言える。雰囲気の良い明るい会社の社員と話をすると間違いなくどこかその会社の社長の言動に似通っていることが感じられる。

厳しい経済環境の中でも明るく業績の良い会社がある、何が要因で素晴らしい会社になれたのかをじっくり観察して真似することも大事である。

他所の会社の社長の観察も大事だが、自分の背中も常に人に見られている事を自覚するのはより大事なことである。

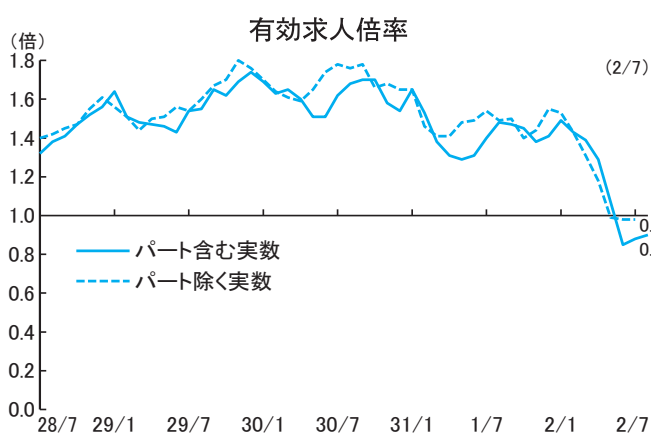
敵を知り己を知れば百戦危うからずという諺もある、皆さんの頑張りに期待致します。

飯田信用金庫では、2名の専門アドバイザーによる継続的な事業支援を行っています。

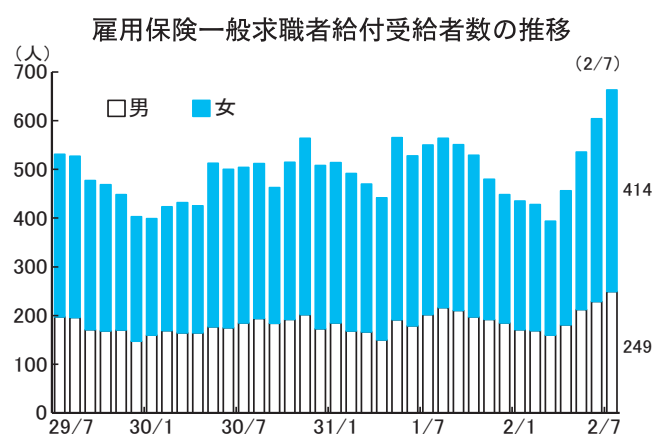
今回執筆を担当した当金庫専門アドバイザー 小泉 敏郎 は、工場、営業、企画など製造業の各部門を経験し、取締役、社長として経営にも携わった経験を基に、皆様の工場等を拝見しお話を伺った上で、多角的な視点から、皆様の課題の解決に向けた取組のお手伝いをさせていただきます。

ご用命は、お取引の支店、または 飯田信用金庫 地域サポート部（飯田市本町1-2 飯田信用金庫4階 TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132）まで お気軽にお申し付けください。

雇用の状況



令和2年7月の月間有効求人倍率は、パートを含む実数で0.90倍と、前月から0.02ポイント上昇。パートを除く実数は0.98倍で、前月から横ばいとなっている。



令和2年7月の雇用保険一般求職者給付の受給者数は前月に比べ、男性は20人増加、女性も39人増加。全体では663人で、前月から59人増加している。

(資料：ハローワーク飯田)

三遠南信地域の港 三河港の現状 (2)

1. 三河港の港湾管理者と港湾計画

三河港の港湾管理者は港湾法33条に基づいて愛知県（三河港務所）となる。港湾管理者は「港湾の開発、利用および保全、港湾に隣接する地域の保全」（港湾法3条3）に関する計画を定める。港湾計画は10年から15年の将来を目標とするもので、三河港では、平成23年に「平成30年代前半を目標年次」（同計画）とする改訂を行っており、来年度に次の改訂年次を迎えるとのことである。計画の柱として、

■ 国際的な物流・産業拠点の形成

- ・自動車流通港湾機能の拡充
- ・コンテナ貨物を取り扱う多目的国際ターミナル など

■ 魅力ある質の高い生活環境空間の創出とみなとまちづくりの推進

- ・交流拠点やレクリエーション空間の確保

■ 環境共生・循環型社会づくりへの貢献

- ・三河湾の生態系の維持など

■ 地域への安全・安心の提供

- ・大規模地震対策、風水害に対する港湾機能の確保

■ 港湾空間のゾーニング

- ・物流ゾーン、生産ゾーン、緑地・レクリエーションゾーン、環境保全ゾーンの指定

が掲げられている。

三河港全貌（航空写真）



（愛知県三河港務所提供）

2. 三河港の港勢 ～取扱貨物量および品目～

平成23年度改訂港湾計画において、目標年次（平成30年代前半）における計画諸数値は右の通りである。

三河港の取扱貨物量は、平成30年度で内・外貿計で23,535千トン。平成28年度から微増傾向にある。三河港の取扱貨物の特徴は自動車の占める比率が高いことにある。「2018年まで自動車の輸入台数・金額が26年連続日本一」「国内シェアは50%超、台数も増加傾向で、輸出台数も安定的に推移」（同港務所資料）。

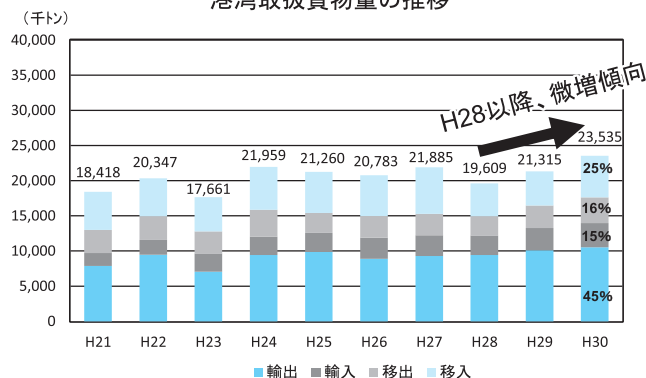
次頁の通り（平成30年）、輸出で完成自動車のシェアは95%、輸入においても完成自動車は64%を占めている。国内メーカーは、トヨタ、スズキ、三菱の生産拠点が周辺にあること、「日本列島の中心という好立地」と「温暖な気候で雪が降らないこと」などから、フォルクスワーゲン、ボルボ、FCA（フィアット・クライスラー・オートモービルズ）、ジャガー・ランドローバー、プジョー・シトロエン、メルセデスベンツなど海外18ブランドの拠点が置かれている。

港湾計画目標数値

取扱貨物量	外 貿 (うち外貿コンテナ)	2,050万トン (40万トン(7万TEU))
	内 貿	1,780万トン
	合 計	3,830万トン
船舶乗降旅客数等		5 万人

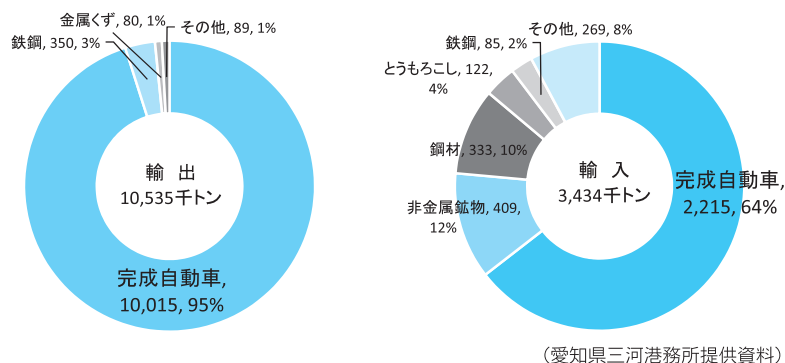
（三河港港湾計画（H23改訂））

港湾取扱貨物量の推移

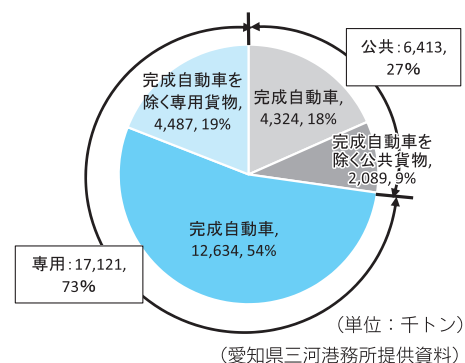


（愛知県三河港務所提供資料）

外貨貨物品目別状況（H30年）



公共・専用別貨物量・割合（H30年）

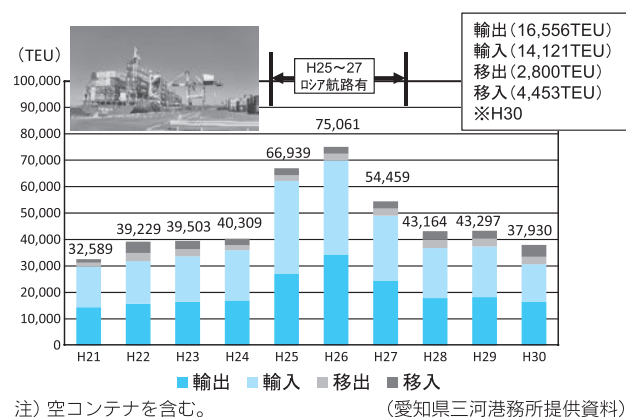


2. コンテナ貨物量は減少傾向

港湾貨物の主力と期待されているコンテナ貨物は、平成26年度の75千 TEU をピークに減少が続いている。その要因として同港務所では、「ロシア航路の廃止、金属機械工業品（輸出入）、木製品（輸入）、製造工業品（輸入）、自動車部品（輸出）等の減少」としている

※ TEU = ISO 規格20フィートコンテナに換算したコンテナ数量単位

コンテナ貨物量の推移



3. 三ヶ日豊橋道路への期待

高速道路を経由して豊橋市中心部へ行く場合、東名高速豊川インターからはやや距離があり、渋滞に遭遇することがある。三河港へのアクセスは「東名高速道路東名音羽蒲郡 IC または同豊川 IC」であり、三河港直背後の国道23号は「慢性的に混雑を呈し、安全性や物流に支障をきたしている」（同資料）との同港務所の認識である。

三河港と東名高速三ヶ日 JCT を起点・終点とする浜松三ヶ日・豊橋道路の構想が立てられ、実現に向けて取り組みが進められてきた。

最近の状況は、本年6月に国土交通省中部地方整備局が社会資本整備審議会道路分科会中部地方小委員会において同道路の3ルート案を公表。同整備局は地域住民や道路利用者を対象としたアンケート調査を11月6日まで実施している（浜松三ヶ日・豊橋道路建設促進期成同盟会 HP）。三遠南信道の整備と併せ、当地域から三河港および豊橋地区や静岡県浜名湖西地区との往来が大幅に改善し、当地域の物流面や産業界へのメリットは多大なものになると期待できる。

（飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平）

浜松三ヶ日・豊橋道路建設 ルート案

